2025（令和７）年1月15日 ＝第1534号＝
毎月１・15日発行

広報 itami 伊丹

伊丹市マスコット たみまる

この号の主な内容

２面　非課税世帯へ臨時特別給付金
３面　市営住宅入居者を募集
４面　税の申告はお早めに
５面　健康　　６・７面　みんなの窓

人口●194,782（－1,099）　世帯数●84,480（＋491）
2025年１月１日推計　（　）は前年１月１日比
発行：伊丹市広報・シティプロモーション課
市ホームページへ

〒664-8503兵庫県伊丹市千僧1-1　TEL072-783-1234（代表）　ファクス072-784-8107（広報・シティプロモーション課）　ホームページ https://www.city.itami.lg.jp

# 阪神・淡路大震災から30年を迎えて

## 災害対策を見直そう

平成７年１月17日午前５時46分に発生した、阪神・淡路大震災から30年、私たちは数々の困難を乗り越え、復興の道を歩んできました。今一度、災害に対する備えを見直しましょう。問い合わせは市危機管理室TEL784−8166へ。

震災発生直後の阪急伊丹駅

現在の同場所

### 次の災害に備える

南海トラフを震源とする巨大地震が今後30年以内に70～80㌫、今後40年以内では90㌫の確率で発生し、本市では最大で震度６弱の強い揺れに襲われると想定されています。

大きな地震に備え、もう一度身の回りの対策を見直しましょう。

## 自助

### 万が一に備えて準備はできていますか

**◆最低３日分の食料や飲料水を備蓄する**　▽主食（アルファ化米、パックご飯、カップ麺、餅など）▽副菜（即席みそ汁、レトルトスープ、味付け海苔など）▽主菜（ツナ缶、レトルトカレーなど）▽飲料（水、茶、スキムミルクなど１日１人３㍑が目安）▽調味料（砂糖、塩、みそ、醤油、マヨネーズなど）▽その他（チョコレートなどの菓子類、はちみつ、梅干しなど）。

**◆非常持出品の用意**　▽非常食（缶詰、レトルト食品、水、粉ミルク、離乳食）▽衣類（下着、毛布、タオル）▽生活用品（洗面用具、ごみ袋、ウェットティッシュ）▽救急医療品（常備薬、三角巾、ガーゼ、絆創膏）▽安全対策品（ヘルメット、レインコート、軍手）▽道具類（携帯電話・充電器、ラジオ、懐中電灯、電池、ライター、ロープ）。

**◆避難所を確認する**　災害発生時は、公園など一時的に避難する「指定緊急避難場所」と、倒壊などにより自宅で生活ができない場合に避難する「指定避難所」があります。

避難する場所は、あらかじめ家族や自治会などの地域で話し合いましょう。

**◆家具を固定する**　なるべく背の高い家具を置かないなど、家具の適切な配置や家具を設置する場合は転倒防止器具を付けるなどの対策をしましょう。

▽L型金具や突っ張り棒で固定▽開き窓はロック、食器棚などのガラス部分に飛散防止フィルムを貼る▽テレビなどは耐震マットや転倒防止のワイヤーで固定。

## 共助

### 地域の助け合いが命を守る

過去の災害では、地域に素早くきめ細かい支援をしてきたのは自治会や自主防災組織、災害ボランティアなどの地域コミュニティーでした。

地域コミュニティーの絆と「共助」の精神が、被災者の生活再建や地域の復興に不可欠となります。災害に強い地域づくりは、平時からの地域とのつながりを持つことが重要です。

**◆災害時**　▽正しい情報を収集し、地域に伝える▽地域で協力して初期消火や救出活動を行う▽近所の人と一緒に避難所へ▽食料の配布や炊き出しを行う。

**◆平常時**　▽自治会への加入▽地域の危険箇所などの見回り▽地域の防災訓練に参加▽普段から近所の人とコミュニケーションを図る。

## 公助

### 災害に強いまちづくり、備蓄品の充実や避難所生活での環境改善

市は、非常用食料、飲料水、毛布などを備蓄しているほか、能登半島地震を教訓に非常用トイレの充実や断水による水不足対策として飲料水の確保に努めています。

【令和６年度の主な取り組み】▽非常用トイレを共同利用施設69箇所に配備▽段ボールベッドを市内全小学校に追加▽インバータ式発電機を10台導入▽市内小・中学校などの受水槽から給水が可能になる応急給水設備を順次設置。

**◆協定締結について**　災害の発生初期には、行政だけでは対応できないこともあると予測されます。阪神・淡路大震災以降、本市は事業者・団体などと応援協定を締結し、対応力強化に努めています。

６年度は、県弁護士会や県司法書士会、コーナン商事㈱と協定を締結し、被災時の法律相談や物資の供給に協力いただきます。

## 1月25日㈯ 伊丹市 総合防災訓練

市は、１月25日㈯午前10時～午後０時半（荒天中止）、市内全域で「市総合防災訓練」を行います。

同訓練は、全市民約20万人がそれぞれの立場で参加し市民の防災力の強化を目指します。

事前に▽LINE（ライン）防災アプリ「伊丹市防災」のともだち登録（下二次元コードから読み取り可）▽アプリ「ひょうご防災ネット」の登録――を行いましょう。訓練当日に情報を受け取ることができます。

訓練内容などは次の通り。

**★「南海トラフ巨大地震」発生を想定**　午前10時、震度６弱の揺れを想定し、屋外拡声器や緊急告知FMラジオなどで緊急地震速報。携帯電話のLINE防災アプリ「伊丹市防災」などで配信（登録者のみ）。

**★誰でもどこでもできる防災行動を**　▽「姿勢を低く、頭を守り揺れがおさまるまでじっとしている」シェイクアウト訓練に参加▽市が発信するメッセージやSNSの確認▽災害備蓄品の確認――など、その日その場所でできる防災行動を取りましょう。

**★訓練を見学しよう**　【スポーツセンター体育館・体育館前広場】午前10時15分～11時半ごろ。

▽避難所開設・運営訓練▽自衛隊による炊き出し訓練▽物資調達・搬送訓練▽災害時に活躍する車両の展示▽レスキュー犬ふれあいスペース▽啓発ブース――など。

【同クラブハウス】午前10時半～11時。

防災トイレ講座。

定員20人。先着順。

救助・救出訓練

【同陸上競技場】午前11時45分～午後０時半。

▽被害状況調査、道路復旧、災害廃棄物処理、消火・救出・搬送訓練▽県消防防災ヘリによる搬送訓練▽パトロールカーの交通整理――など。

**★市内各所で行う訓練**　▽防災センター＝災害情報伝達訓練、災害対策本部会議の設置訓練など▽市立伊丹病院＝傷病者の受け入れ訓練▽（社福）市社会福祉協議会＝災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練▽（社福）いたみ杉の子（鴻池１）＝福祉避難所を開設。

詳しくは市ホームページ（下二次元コードから読み取り可）で確認を。

＊　＊

問市危機管理室TEL784・8166。

## 防災講座

### 助かるために、助けるために

災害時は支援が届くまで時間がかかると言われています。自宅の備蓄は何をすればいいのでしょうか。備蓄の考え方を知り、自分にあった備蓄を考え、水道・電気・ガスが止まったときに役立つ防災クッキングなどについて学びましょう。

【日時】２月15日㈯午前10時
【会場】ここいろ
【定員】20人。一時保育あり（１歳～就学前６人。１人300円。要予約）
【参加料】無料

申電話で市危機管理室TEL784−8166か市ポータルサイト（二次元コードから読み取り可）から電子申請を。先着順。

## 阪神・淡路大震災30年 震災パネル展

阪神・淡路大震災を「忘れない」「伝える」「活かす」「備える」「繋ぐ」ため、パネル展を開催します。

【日時】１月16～23日
【会場】スワンホール２階のフリースペース
無料。

中央公民館TEL784−8000

⚠【いたみ健康・医療相談ダイヤル24】看護師などが24時間健康や医療に関するご相談に応じます（無料）☎0120-783-990

「広報伊丹」は再生紙を使用しています